

2023年度
聖書講座

宗教と終末論

① 10:25 ~ 10:30

挨拶

川中 仁 (上智大学神学部教授／上智大学キリスト教文化研究所所長)

② 10:30 ~ 12:00

「神の国はあなたがたの〈内面に〉」

- ルカ17,21の〈ἐντός〉について』※講演動画配信予定

大貫 隆 (東京大学名誉教授)

③ 13:30 ~ 15:00

「破局のなかの希望 - よみがえる終末論」

福嶋 揚 (東京大学大学院他にて講師)

④ 15:15 ~ 16:45

「創造と終末 - 創造物語の再話の伝統とヨハネ黙示録の終末論」

遠藤 勝信 (東京女子大学哲学専攻教授)

Nuremberg_chronicles_John,_Apostle_and_Evangelist

11月
11日
(土)

【開催方法】会場（定員50名）+オンライン（Zoomウェビナー）

【会場】上智大学中央図書館8階821会議室

【申し込み方法】受付期間：10/2～10/30

下記QRコードまたは申込URLよりお申し込みください。
お電話での申込受付は一切行っておりません。

(申込URL)<https://forms.office.com/r/ZXeHiCNnn3>

※お申し込みの際「kiriken-co@sophia.ac.jp」からのメールを受信できるよう、迷惑メール設定から解除、

または受信設定をお願いいたします。

※受付期間外のお申し込みは受理出来ませんのでご了承ください。

【聴講料】お支払は銀行振り込みのみ。詳細はお申込後、別途ご案内いたします。

一般 1,000円 / 学生 800円

お申込みフォーム

【問合せ】メール：kiriken-co@sophia.ac.jp

電話：03-3238-3540（月曜～金曜 10:00～11:30/12:30～16:30）

※開催方法、問合せ受付時間は変更になる場合がございます。

※最新情報等は研究所HPにてお知らせいたします。

※パソコンの操作についての電話でのお問い合わせにはお答えできかねます。ご了承ください。

上智大学キリスト教文化研究所ホームページ <https://dept.sophia.ac.jp/is/icc/>



2023年度 聖書講座

宗教と終末論

概要

ユダヤ教およびそこから分かれていったキリスト教において、「終末」をどう理解した上で「現在」をどう生きるかということが、難題を抱えたそれぞれの時代に向き合い希望を持ってそれらを乗り越えていくために、重要な要素であった。その「終末」を具体的にわたしたちがどう理解すべきかを聖書や現代思想から多角的に学んでみたい。

10:30～12:00

「神の国はあなたがたの〈内面に〉 - ルカ17,21の〈ἐντός〉について」※講演動画配信

大貫 隆（東京大学名誉教授）

ルカ17,21のイエスによれば、神の国は「ここ」や「あそこ」ではなく、「あなたがたの〈ἐντός〉に」ある。この〈ἐντός〉は翻訳上的一大難所としてよく知られている。

これまでに提案してきた解釈は(1)「～の内面に」、(2)「～の間に」、(3)「～の手が届く範囲に」の三つである。私は今回の講演で、福音書記者ルカ自身の念頭にあるのは(1)であることを明らかにしてみたい。その重要な手がかりの一つが「体のあるところはどこでも、そこに禿鷺たちも集まるだろう」(ルカ17,37)というイエスの謎の言葉である。私の最近の発見では、これはもともとヘレニズム文化圏で人口に膾炙していた格言であった。ルカはイエスのこの言葉をどこから手に入れ、どう読解したのか。それは使徒言行録を含む彼の著作全体から読み取られる神学、すなわち脱終末論化された世界史の神学の中に、どう組み込まれているのか。

13:30～15:00

「破局のなかの希望 - よみがえる終末論」

福嶋 揭（東京大学大学院他にて講師）

現代世界は、1.「六度目の大量絶滅」と言われる自然生態系の破壊、2.貧困の拡大（より厳密には貧富格差の極大化）、3.世界戦争（第三次世界大戦）という、三重のカタストロフィに直面している。この複合的な災禍の原因を探ってゆくと、あくなき経済成長を目指す国民国家同士の覇権争いという根本的な原因が見えてくる。これを資本と国家という二重の権力の極大化と言いかえてもよい。聖書の比喩を用いるならば、「マモン」と「リヴァイアサン」という物神が、延命をはかけてあらゆるものを食い尽くし、今や地球という「私たちが共に暮らす家」を減ぼしつつあるのである。けれども厳密に言えば、このような「破局（カタストロフィ）」は「終末」ではない。破局を通して初めて、破局の彼方から、予想もできなかった希望が立ち現れてくる。私たちがそのような絶望と希望の未だかつてない転換点に生きているということを、哲学的・神学的に明らかにしたい。

15:15～16:45

「創造と終末 - 創造物語の伝統とヨハネ黙示録の終末論」

遠藤 勝信（東京女子大学哲学専攻教授）

ヨハネ黙示録の終末論は第二神殿期ユダヤ教黙示文学の神学的問いを共有し、ヘブライ語聖書およびその再話の伝統を継承している。特に創造論と終末論の接近は、第二神殿期ユダヤ教黙示文学と同様、ヨハネ黙示録にも觀られる。「アルファであり、オメガである」神（黙1:8, 21:6）、また「アルファであり、オメガであり、最初の者（プロートス）にして、最後の者（エスカトス）。初め（アルケー）であり、終わり（テロス）である」イエスの神的アイデンティティ

に関する思索と概念構築が、紀元後1世紀末の危機の時代を相対化するのに役立っている。本

講義では、第二神殿期ユダヤ教文書にみられる創造物語の再話の伝統を丁寧に追い

つつ、ヨハネ黙示録に展開する終末論を考察する。